

## 3

## 子ども一人ひとりを大切にする教育の推進

## 取組方針

教員が子どもと向き合いながら、いじめや不登校の未然防止に努め、早期発見・早期対応を図るとともに、特別な支援を必要とする子ども一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るために、以下の取組を推進します。

## (1) いじめ不登校などに対する相談・支援体制の充実

いじめや不登校などの相談に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家との連携を図りながら、適切な支援体制の整備を進めます。

## ①生徒指導の充実

児童生徒が自主的に判断・行動し、積極的に自己を生かしていく力を育成するために、愛情と信頼に基づく人間関係の構築と、望ましい教育環境の実現に努めるとともに、学校や家庭・地域社会及び関係諸機関との連携・協力を積極的に図っている。

特に、インターネット等の安全な利用やいじめの根絶、不登校等の児童生徒に対するかかわりや支援、問題行動等を繰り返す児童生徒への指導・支援等に重点的に取り組んでいる。

## ■熊本市いじめ防止基本方針

平成25年9月に施行されたいじめ防止対策推進法を受け、国・県・市・学校・家庭・地域その他の関係者が連携して、いじめの問題の克服に向けて総合的かつ効果的にさまざまな取り組みを進めるために、平成26年3月に熊本市いじめ防止基本方針を策定した。

本市は、「いじめは絶対に許さない」という強い意識を持ち、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努め、家庭、地域、関係機関等と連携し、「いじめ根絶」に向け取り組んでいる。

また、熊本市立のすべての小・中・高等学校においてもそれぞれの学校の実情に応じた「学校いじめ防止基本方針」を策定した。

## ■スクールカウンセラー（SC）

いじめ・不登校・暴力行為などの児童生徒の問題行動に関して、専門的カウンセリング等による対応を行っている。

平成9年度から平成23年度までは県から配置されていたが、平成24年度からは、本市が実施主体となったことから事業の充実を図り、平成25年度からは、拠点中学校21校に配置し、すべての中学校に対応できる体制を整えた。（国1／3補助事業）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
延べ相談件数	2,657件	3,364件	3,959件	3,829件	4,267件

## ■心のサポート相談員

平成16年4月から「心のサポート相談員配置事業」として、児童生徒が悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることができるような地域の人材を、相談員として配置している。平成25年度からは、小学校46校と中学校21校に配置した。（国1／3補助事業）

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
延べ相談件数	小学校	4,739件	6,674件	7,541件	9,022件	9,923件
	中学校	3,902件	4,744件	3,654件	3,153件	3,550件
	計	8,641件	11,418件	11,195件	12,175件	13,473件

## ■スクールソーシャルワーカー（SSW）

いじめや不登校問題をはじめ生徒指導上の諸問題の積極的予防及び解消のために、関係機関と連絡・調整を進め、子どもにかかわる問題や環境の改善を図っている。

平成20年度から平成22年度までは県から配置されていたが、平成23年度からは本市が実施主体となったことから事業の充実を図り、平成27年度は、精神保健福祉士2人、社会福祉士4人の計6人を配置した。（国1／3補助事業）

年 度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
SSWの数		3人	4人	5人	6人	6人
活動時間数		3,300時間	4,400時間	5,500時間	6,600時間	6,600時間
派遣人数	小学校	179人	193人	236人	285人	269人
	中学校	112人	129人	150人	208人	252人

○配置形態 総合支援課教育相談室に配置し、要請に応じて学校等に派遣する。

## ○主な業務内容

- ・問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け
- ・関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
- ・学校内におけるチーム体制の構築、支援
- ・児童生徒、保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
- ・教職員等への研修活動 等

## ■ユア・フレンド

平成14年4月から、熊本市教育委員会と熊本大学教育学部の連携協力の一つとして実施している。

不登校等の児童生徒に対し、ユア・フレンドとして登録した熊本大学教育学部の学生を、小・中学校からの派遣依頼に応じて、家庭や学校等に派遣し、話し相手・遊び相手になってもらう。

平成27年度は、男子31人、女子151人、合計182人の学生がユア・フレンドとして登録し、活動を行なった。



ユア・フレンド意見交換会の様子

<ユア・フレンドに登録した学生数の推移> (人)

年 度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
男 子 学 生	33	27	28	30	31
女 子 学 生	126	148	152	161	151
合 計	159	175	180	191	182

## ○平成27年度実績

- ・派遣した学校数 71校（小学校：37校、中学校：34校）
- ・派遣学生の内訳 (人)

派 遣 先	家庭	校内1対1	校内複数	フレンドリー	合計
男 子 学 生	19	9	5	1	34
女 子 学 生	28	35	45	19	127
合 計	47	44	50	20	161

※1：重複して派遣されている学生を含む。

※2：本人の都合等により、46人（男子学生5人、女子学生41人）が未派遣。

・派遣先児童生徒数の内訳 (人)

派遣先	小学校			中学校			小・中学校合計			
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	
家庭	4	11	15	18	13	31	22	24	46	
学校	1対1	9	15	24	6	13	19	15	28	43
	対複数	16	14	30	29	45	74	45	59	104
合計	29	40	69	53	71	124	82	111	193	

※ 総派遣回数 2,343回 (平成26年度は2,336回)

## ②専門的かつ迅速な相談の実施

### ■緊急対応相談員

平成20年4月から、熊本市立学校等の児童・生徒及び保護者を対象として、学校等での緊急又は解決困難な様々な問題に対応する緊急対応相談員を派遣している。臨床心理士による心のケア、カウンセリング等を行うほか、平成25年度からは、新たに、いじめや生徒間暴力等の問題行動等への弁護士による相談・支援を行っている。(国1/3補助事業) (件)

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
対応相談 件数	小学校	13	15	22	16	15
	中学校	10	12	7	29	37
	計	23	27	29	45	52

### ■教育相談に関する事業

○来所相談 (専門家による相談を含む。要予約)

発達や就学、いじめや不登校など教育に関する相談を行う。

・対象 発達や就学、いじめや不登校等に関して、熊本市在住の年長児、小・中・高校生の子ども本人、保護者及び学校関係者

・相談時間 月曜日～金曜日 (祝日、年末年始を除く) 午前9時30分～午後3時45分

・予約電話 (096) 362-7070

月曜日～金曜日 (祝日、年末年始を除く) 午前9時～午後5時15分

<相談件数の推移> (件)

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
延べ 相談件数	発達や就学	1,432	1,648	1,604	1,761	1,795
	不登校	781	777	1,074	1,160	970
	その他	7	18	26	18	8
	計	2,220	2,443	2,704	2,939	2,773

○適応指導教室 (フレンドリー、火の君学級、スクーリングアップ教室)

不登校の状態にある児童生徒に対して、個別や集団での活動を通して適応指導を行うことにより、学校復帰を支援し、社会的な自立を目指す。

・申込 保護者から学校を通して

・活動時間 月～金曜日 午前9時30分～午後3時 (休日、年末年始、春・冬休み期間を除く)  
火曜日 午前9時30分～正午 (休日、年末年始、春・冬休み期間を除く)

※スクーリングアップ教室においては、火・木曜日のみ、午前9時～正午まで、夏季休業中も実施しない。

・活動内容 スポーツ活動、パソコン学習、読書活動、仲間づくり活動、ものづくり活動、終日体験活動、学習支援、宿泊キャンプ など

<通所人数の推移> (フレンドリー、火の君学級、スクーリングアップ教室の合計人数) (人)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
中学生	69	74	83	79	79
小学生	6	9	11	11	9
合計	75	83	94	90	88

### ■カウンセリングの研修

教育相談活動上必要となるカウンセリング技法を習得し、児童生徒・保護者の支援に活かす研修を行っている。教育現場等で活躍中の臨床心理士や大学教授等を講師に招き、ロールプレイをするなど参加体験型の研修を行い、カウンセリング技法のスキルアップを図る。

現場の要望に応え、平成24年度にSD（自己啓発）活性化支援希望研修の一講座として「保護者カウンセリング」講座を開設した。保護者との信頼関係づくり、保護者相談への対応法について力量を高めるため、平成28年度も実施する。

<平成27年度実績>

○SD 活性化支援希望研修 ・子どもいきいき！わくわく体得カウンセリング！！ 対象者（幼・小・中・高・ビジネス専門学校） 95人 ・保護者もいきいき！わくわく体得カウンセリング！！ 対象者（幼・小・中・高・ビジネス専門学校） 17人	○Off-JT 研修（経年者研修） ・初任者研修「カウンセリング研修」 対象者（小・中・高等学校） 89人 ・10年経験者研修「カウンセリング研修」 対象者（小・中学校） 38人
○OJT（パッケージ研修） ・教育研修	○Off-JT 研修（職能研修） ・幼児教育研修「幼→小、小→幼」で学ぶ幼児教育の今「幼児教育と情報モラル」 対象者（幼稚園・小学校） 48人 ・幼児教育専門研修「生きる力の基礎を育てる幼児教育」 対象者（幼稚園） 41人

<平成28年度事業>

○SD 活性化支援希望研修 ・子どもいきいき！わくわく体得カウンセリング！！ ・保護者のかかわり方を学ぼう！わくわく体得カウンセリング！！ 対象者（幼・小・中・高・ビジネス専門学校）	○Off-JT 研修（経年者研修） ・初任者研修「カウンセリング研修」 対象者（幼・小・中・高等学校） ・10年経験者研修「カウンセリング研修」 対象者（小・中学校）
○OJT（パッケージ研修） ・授業づくり研修 対象者（幼稚園）	○Off-JT 研修（職能研修） ・幼児教育専門研修「幼児教育と情報モラル」 対象者（幼稚園） ・「幼→小、小→幼で学ぶ幼小連携の在り方」 対象者（幼稚園・小学校）

## (2) 特別支援教育の推進

特別な支援を必要とする幼児児童生徒の自立と社会参加に向けて、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、障がいの状態や発達段階、特性に応じた適切な教育を推進している。

### ■熊本市特別支援教育推進計画

特別支援教育を総合的・計画的に推進するための基本的な指針として平成24年12月に策定した。

基本目標を「一人ひとりの育ちを支える特別支援教育の充実」と定め、基本方針として、「幼児期から卒業後まで一貫した支援体制の構築」「特別支援教育の質的向上」「教職員の専門性の向上」「多様な学びの場の確保」を掲げ、これらの方針に沿ってライフステージごとに施策の方向性と取り組みを明確にして、特別支援教育の充実を図ることとしている。

#### ■笑顔いきいき特別支援教育推進事業

発達障がい等を含めた幼児児童生徒への総合的な支援体制の構築を図ることを目的に、医療・療育などの関係機関等と連携して特別支援教育を推進するため、熊本市特別支援連携協議会を設置するとともに、市内を5地区21ブロックに分け、拠点校を中心として地域ごとに取組の活性化を図っている。

#### ■教職員の専門性の向上

ブロック毎に、情報交換会、専門家を招聘した研修会、授業研究会等を行っている。また、特別支援学級の担任や通級指導教室の担当、特別支援教育コーディネーターなどを対象に、全市的な研修を計画的に実施するほか、各学校では校内研修、巡回相談員や専門家を招聘した研修会、特別支援教育の視点を生かした授業研究会等を行っている。

平成23年度から「特別支援教育スキルアップ派遣研修」を実施しており、平成27年度は20人の教諭を県内外の先進的な取組を行っている特別支援学校等に課業日の5日間派遣し、研修を行った。

#### ■特別支援学級設置状況（平成28年5月1日現在）

区 分	知的障害学級		病弱学級 院内学級		自閉症・情緒 障害学級		肢体不自由 学級		弱視学級		難聴学級		合 計	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
校 種														
学校数（校）	87	39	23	6	86	36	23	9	4	3	10	4	91	42
学級数（学級）	107	45	26	8	121	55	23	9	4	3	10	4	291	124
在籍者数（人）	439	176	36	9	581	282	31	10	4	3	17	7	1,108	487

#### ■通級指導教室設置状況（平成28年5月1日現在）

区 分	言語障害通 級指導教室		情緒障害通 級指導教室		難聴通級 指導教室		LD・ADHD 通級指導教室		合 計		区 分	ことばの 教室
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
校種											校 種	幼稚園
学校数 （校）	8	-	7	-	2	1	9	3	18	4	園数（園）	2
教室数 （学級）	17	-	11	-	3	1	12	4	43	5	指導者数 （人）	10
利用者数 （人）	200	-	139	-	8	5	173	54	520	59	利用者数 （人）	117

#### ■階段昇降機整備

車椅子を使用する児童生徒がいる小・中学校へ、車椅子をのせることができる階段昇降機を導入し、移動の円滑化を図る。

- ・平成27年度末 保有台数 24台

#### ■特別支援学校建設

知的障がいのある児童生徒への専門的指導や就学・進学ニーズに応えるため、市立特別支援学校を



設置する。今後、特別支援学校は、市内の教職員や保護者の研修や教育相談等、地域の特別支援教育を推進するセンター的役割を担い、特別支援教育の充実に貢献できる学校を目指すもの。

## ○高等部（市立平成さくら支援学校）

設置学科（学級）	普通科（一般学級）
対象となる障がい種	知的障害
学級数等	・開校時、1年生のみ3学級（24人程度） ・開校後、学年進行にて入学（平成31年度：3学年9学級 全生徒72人程度） ・その後、設置を計画している市立特別支援学校小・中学部開校後に、学級の増設（4学級／学年）を検討する。
建設用地	熊本市南区平成2丁目20-1（約21,600㎡）
開校時期（予定）	平成29年4月
整備スケジュール	平成27～28年度 校舎・体育館等建設工事 平成29年度 開校（予定）

## ○小・中学部

設置学部（学級）	小学部・中学部（一般学級）
対象となる障がい種	知的障害
学校規模（学級数等）	小学部 各学年1学級（全6学級 全児童36人程度） 中学部 各学年2学級（全6学級 全生徒36人程度）
建設用地	城東小学校・藤園中学校敷地内
開校時期（予定）	平成32年4月
整備スケジュール	平成27～28年度 基本設計・実施設計、藤園中新体育館建設工事 平成29年度 藤園中旧体育館等解体工事、埋蔵物調査、校名決定 平成30～31年度 校舎建設工事 平成32年度 開校（予定）

## ■修学旅行特別支援経費

熊本市立小中学校の修学旅行の実施に際し、常時介添えを要する児童生徒の保護者が、当該児童生徒に付き添う場合に経費の一部を補助する（平成17年度事業開始）。

## ○補助の上限額

- ・小学校：31,900円
- ・中学校：78,790円

## (3) 教員が子どもと向き合う時間の拡充

学校への人的支援の強化のほか、学校のマネジメント力強化に向けた管理職等の研修プログラムや、校務支援の充実に図り、効果的・効率的な学校運営を推進するなど、教員と子どもがしっかりと向き合える環境づくりを行います。

## ■学校教育コンシェルジュ

平成28年7月から学校教育コンシェルジュを設置し、4名の専門スタッフが学校教育に関するあらゆる相談に応じている。必要に応じて、学校や家庭など現場に出向く。

- ・対象 保護者等
- ・相談方法 電話、メール、面談
- ・設置場所 こどもセンター「あいぱる くまもと」2階：教育相談室内
- ・相談時間 月～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前10時～午後6時
- ・連絡先 【電話】096-362-7171 【電子メール】7171con@city.kumamoto.kumamoto.jp

## ■学級支援員

教育活動に支援を要する園・学校に、幼児児童生徒の安全確保、学習環境の改善を図るため、担任の補助となる学級支援員を配置している。

<学級支援員数の推移（各年度1学期）> ※教育活動サポーターを含む

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
配置学校数（校）	122	127	125	135	134
学級支援員（人）	108	121	127	131	131

## ■学校現場の負担軽減事例集の作成

学校現場における教職員の負担感を軽減し、子どもと向き合う時間を確保するため、平成21年度から「学校現場の負担軽減検討委員会」を設置し、教育委員会と学校現場がそれぞれに取り組むべき具体的方策を検討し、できることから実施してきた。

平成25年12月に実施した「教職員の負担軽減に関するアンケート」の結果の分析や、スクールミーティングでの意見を踏まえ、具体的な負担感の解消に取り組んでいくとともに、学校現場における取組を支援することを目的として、平成28年3月、負担軽減に取り組んでいる学校の事例をまとめた「学校現場の負担軽減事例集～教職員が子どもと向き合う時間を確保するために～」を作成した。

今後は、この事例集の活用を各学校に促して、学校現場の負担軽減の取組に役立ててもらうとともに、教員が子どもと向き合う時間の確保に努める。